

Ⅱ 実践編①

平成27年度特別支援学校授業改善プロジェクトの概要と

担当教諭3名の提示授業等を紹介します。

1 授業改善プロジェクト概要

【目 的】

- ・生活単元学習の基礎・基本に基づく実践の充実を図る。
- ・生活単元学習の基礎・基本に基づく実践の推進において、中心的役割を担う人材を養成する。

【概 要】

1 授業改善プロジェクト会議（3回）

- ・内 容 生活単元学習の基礎・基本と授業改善の要点の整理・まとめ
- ・担当者 特別支援教育課指導主事、教育専門監3名（各地区1名）
（※73ページ参照）

2 基礎研修会（1回）

- ・内 容 講義「生活単元学習の基礎・基本」
講義・演習「生活単元学習の授業デザイン・授業実践」
協議「生活単元学習の授業づくりを楽しむ」
- ・担当者 特別支援教育課指導主事、担当教諭（全員）（※73ページ参照）

3 授業検討会（各地区1回）

- ・内 容 授業研究会で提示する授業の年間指導計画と学習指導案等の検討
- ・担当者 特別支援教育課指導主事、教育専門監（各地区1名）、
担当教諭（各地区1名）

4 授業研究会（各地区1回）

- ・内 容 授業提示・参観と協議
- ・担当者 特別支援教育課指導主事、教育専門監（各地区1名）、
担当教諭（各地区全員）

5 県教育研究発表会での発表

- ・担当者 特別支援教育課指導主事、担当教諭1名（授業研究会授業提示者）

6 生活単元学習ガイドの作成

- ・担当者 特別支援教育課指導主事、担当教諭（全員）、教育専門監（全員）

【担当教諭（各校から小・中学部の教諭を推薦）】

- ・生活単元学習の授業を担当し、その指導に精通している教諭。
- ・生活単元学習の基礎・基本に基づく実践の推進において、中心的役割を担う人材としての資質をもつ教諭又は中心的役割を担う人材として育成したい教諭。

2 授業検討会及び授業研究会概要

【提示授業の概要】

回	概 要	授業検討日
1	[県央地区] 9月25日(金) 県立養護学校天王みどり学園 ・ 中学部3年 ・ 単元名「開店!!スマイルベーカリー①～中学部試食会を開こう～」 ・ 指導者：藤原 佑介、大川原朋美、港 哲子	9月8日(火)
2	[県北地区] 10月19日(月) 県立比内養護学校 ・ 小学部3・4年 ・ 単元名「スマイルおとどけたい②～スマイルハウスへようこそ～」 ・ 指導者：小嶋 聖、森本 真由、浜谷 皐月	10月5日(月)
3	[県南地区] 11月26日(木) 県立横手養護学校 ・ 中学部3年1・2組 ・ 単元名「われら横養むかしがたり隊③～家族と全校のみんなに発表しよう～」 ・ 指導者：鈴木 颯、鎌田 次美、藤原 梢	11月10日(火)

【授業検討会】

- 参加者：授業者、教育専門監、担当指導主事
- 内 容：年間指導計画、学習指導案等の検討

授業デザインと授業実践の課題解決に向け、年間指導計画の検討から行った。年間目標や単元目標、本時の目標の明確化・具体化、年間目標達成に向けた各単元の配列、単元設定の理由の明確化、課題意識をもてる導入の活動・手立て等について確認した。

【授業研究会】

- 参加者：授業者、教育専門監、担当指導主事、各地区担当教諭
- 内 容：授業参観、協議（提示授業、各担当教諭の授業実践）
- 協議題：「生活単元学習及び授業の基礎・基本に基づく授業実践の改善について」

提示授業だけではなく、各担当教諭が中心に取り組んでいる授業実践についても、資料に基づき協議した。

なお、各担当教諭が年間を通し、参画意識をもって取り組めるように進めた（右図）。

担当教諭の各取組

	授業実践	中心的役割
基礎研修会 (6月)	思い出に残る単元紹介	
授業検討会 (9～11月)		
授業研究会 (9～11月)	実践記録①(協議資料)	アンケートへの回答①
授業研究会後	実践記録② 生活単元学習ガイドの原稿 作成	アンケートへの回答②

2 授業検討会及び授業研究会 授業改善の資料

授業デザインチェックリスト

～特別支援教育のミニマムスタンダードより～

A 授業デザインチェックリスト

期 日		単元(題材)名	
授業者		評価者	

評価基準 : 4 (よい) — 3 (概ねよい) — 2 (やや不十分) — 1 (不十分)

	番号	評 価 内 容	評 価
子ども理解	1	学習や生活の様子、取りまく環境、興味・関心等、実態を多面的に把握している。	4-3-2-1
	2	得意なことを伸ばし、苦手なことは「〇〇があればできる」という視点でとらえている。	4-3-2-1
単元(題材)設定	3	「個別の指導計画」→「年間指導計画」→「単元毎の計画」を踏まえて指導案を作成している。	4-3-2-1
	4	子どもの発達の段階に応じた単元(題材)である。	4-3-2-1
	5	子どもの興味・関心に基づいた単元(題材)設定になっている。	4-3-2-1
	6	単元(題材)を通して育てたい力(目標)が明確である。	4-3-2-1
	7	単元(題材)の内容は、現在または将来の生活と結び付いている。	4-3-2-1
	8	単元(題材)を通して各学習活動のねらいが明確である。	4-3-2-1
	9	集団の活動としてゴールが明確な単元(題材)構成になっている。	4-3-2-1
	10	少し難しく、挑戦したいと思える課題が設定されている。	4-3-2-1
教材研究	11	単元(題材)の目標に迫るため、適切な教材が検討されている。	4-3-2-1
	12	何をどのように指導するかという教材の意図が明確になっている。	4-3-2-1
	13	補助具や環境設定の工夫により、一人で活動できる場面づくりがなされている。	4-3-2-1
指導計画・内容	14	単元(題材)を通して、知識や技能を獲得するための活動量が保証されている。	4-3-2-1
	15	一人一人が主体的に考えて、判断し、表現したり活動したりする場面を確保している。	4-3-2-1
	16	障害への配慮や認知特性を生かすなど一人一人の学びやすさに対応している。	4-3-2-1
	17	やり直しや繰り返し行うことができる内容である。	4-3-2-1
	18	一人一人に応じて、内容に易から難、少から多、粗から細などの過程や段階、種類がある。	4-3-2-1
	19	指導方針や効果的な支援のための教師の役割が明確である。	4-3-2-1
コメント			

※コメントには主に改善案を記入する。必要に応じて、項目番号を記入する。

※各教科等、本時の授業内容等によって評価できない場合は、項目番号に斜線を引き、評価欄は無記入とする。

2 授業検討会及び授業研究会 授業改善の資料

授業実践チェックリスト

～特別支援教育のミニマムスタンダードより～

B 授業実践チェックリスト

期 日		単元(題材)名	
授業者		評価者	

評価基準 : 4 (よい) — 3 (概ねよい) — 2 (やや不十分) — 1 (不十分)

教師の基本姿勢	1	健康・体調、安全や衛生面への配慮を十分行っている。	4-3-2-1
	2	明るく、落ち着いた雰囲気をつくっている。	4-3-2-1
	3	子どもからの反応や発信に気付き、受け止めている。	4-3-2-1
	4	子どもの気持ちや思考に寄り添い、一緒に取り組んでいる。	4-3-2-1
	5	言葉遣いや態度など、場に適した対応をしている。	4-3-2-1
学習のねらい及び学習活動の設定	6	単元や子どもの実態を踏まえ、本時のねらいが適切に設定されている。	4-3-2-1
	7	本時の学習内容や難易度の設定が適切である。	4-3-2-1
	8	本時の学習量や学習時間・時間配分の設定が適切である。	4-3-2-1
	9	本時の学習に対する成就感と次時への期待感をもてるようまとめている。	4-3-2-1
教環境・教材・設定及び教具等	10	教室内の学習環境が整っている。	4-3-2-1
	11	分りやすく板書や提示がされている。	4-3-2-1
	12	教材・教具が適切である。	4-3-2-1
	13	必要に応じて、子どもの発信を支える教具等を用意している。	4-3-2-1
説明・教示・評価等	14	学習に対する見通しや意欲をもてるようにしている。	4-3-2-1
	15	要点をしぼり、具体的かつ簡潔に伝えている。	4-3-2-1
	16	気付きや思考、イメージ化を促す働き掛けをしている。	4-3-2-1
	17	T1として全体を把握しながら、T2と連携して授業を行っている。	4-3-2-1
	18	T2として、T1と連携し子どもの動きに応じた指導をしている。	4-3-2-1
	19	子どもが理解しているか、活動できているか見届けている。	4-3-2-1
	20	努力や成果、態度などを的確に、場を捉えて認めている。	4-3-2-1
コメント			

※コメントには主に改善案を記入する。必要に応じて、項目番号を記入する。

※各教科等、本時の授業内容等によって評価できない場合は、項目番号に斜線を引き、評価欄は無記入とする。

2 授業検討会及び授業研究会

学習指導案 検討の視点

小学部3・4年 生活単元学習 学習指導案

日時：平成27年10月19日（月）9:25～10:10
場所：小学部3・4年教室、学習室
児童：3年（男2人、女1人）、4年（男2人）、計5人
指導者：小嶋聖T1、森本真由T2、浜谷皐月T3

1 単元名 「スマイルおとどけたい2 ～スマイルハウスへようこそ～」

2 単元の目標

- (1) 自分の担当する役割が分かり、友達や教師と一緒に部屋の飾りやお菓子を作る。
- (2) お茶会の雰囲気を味わったり、友達や招待客とのやり取りを楽しんだりする。

3 児童と単元

(1) 児童について

本学級には、学校生活全般で支援が必要な車椅子の児童が2人、てんかん発作で体調面に配慮が必要な児童が1人いる。制作や調理など作る活動や身近な人と関わって遊ぶことを好む児童が多く、前単元では、手作りした大型絵本の発表会に学部の友達や教師を招き、自分たちも楽しみながら繰り返し発表した。また、年間を通してホットケーキなどの簡単な調理活動を行い、身近な教師を招いて会食を楽しんでいる。好きなことや得意なことを活動の中心に据えて繰り返し活動する中で、友達や教師と作る過程を楽しむ姿、自分なりに工夫して活動する姿が見られるようになってきた。また、作った物が身近な人に喜んでもらえた思いから、「教室に飾りたい」「友達や先生にも食べてほしい」という気持ちも高まってきている。

(2) 単元について

本単元は、児童に人と関わる喜びや感謝される体験を積み重ねる単元「スマイルおとどけたい」の2回目である。前単元では、絵本の発表を楽しみながら招待客との楽しい時間を共有できた。本単元では、お茶会の会場となる「スマイルハウス」にのれんや絵画などを飾り、校内の友達や教師に加え、交流先の小学生を招き、作ったクッキーや飲み物をふるまって会食を共に楽しむ。クッキーや飲み物作りは調理方法が分かりやすく、味や形、色合いなど自分たちで工夫することができ、楽しみながら活動に取り組める。調理と試食を繰り返す中で手順を覚え、自分たちで活動を進めたり、友達と力を合わせて取り組んだりする姿も期待できる。また、会食の中で招待客から「おいしいね」「ありがとう」など間近で評価されることは、喜びややりがいの実感、そして人との関わりの広がりにつながると考え、本単元を設定した。

(3) 指導について

- ・児童が存分に活動できるように、好きな活動を取り入れ、担当する活動を選択させたり、手順を写真カードや教師が見本で示したりする。また、活動の終わりを分かりやすく提示する。
- ・児童同士が力を合わせて活動できるように、実態差を生かした班編制にしたり、意図的に共同する場面を設定したりする。また、教師の支援内容を徐々に児童へ移行していく。
- ・やり取りして楽しむ機会が増えるように、会食の座席を隣にしたり、質問カードを準備したりする。また、児童の気持ちを教師が代弁したり、児童の関わりを仲立ちしたりする。

【検討の視点】

○単元名

- ・生活に即しているか。
- ・分かりやすいか。
- ・意欲をもてるか。

○単元の目標

- ・生活上の目標達成や課題解決につながる内容か。
- ・具体的であるか。
- ・各観点に偏りはないか。

○児童と単元

- ・単元の目標と一貫しているか。
- ・児童観、単元観、指導観が一貫しているか。
- ・各教科等の内容や段階を踏まえているか。

〈児童について〉

- ・単元に係る実態を含めているか。

〈単元について〉

- ・単元設定の理由が明確になっているか。

〈指導について〉

- ・次の指導計画につながる内容を含めているか。

4 指導計画（総時数33時間）

小単元名・主な学習活動	時数	主 な 目 標
(1)スマイルハウスってなんだろう ①スマイルハウスについて知る	1	・スマイルハウスでお茶会を開き、友達や教師を招いて一緒に会食することを知る。
(2)飾りや小物をつくろう ①オリジナルマーク作り ②部屋の装飾作り ③小物、招待状作り ④衣装作り	14	・友達とアイデアを出し合って、おとどけたいのマークの色やデザインを決める。 ・スマイルハウスの飾りやお茶会で使う小物を作る。 ・招待客へ渡す招待状やチケットを作る。 ・調理やお茶会で身に付けるエプロンやバンダナを作る。
(3)お菓子と飲み物をつくろう ①メニュー選び ②調理、試食、アンケート調査	8	・お菓子や飲み物を数種類の中から選ぶ。 ・衛生面に気を付け、友達や教師と一緒に調理する。 ・味や形、色合いなど、試食を繰り返して決める。
(4)お茶会をひらこう ①お菓子の準備（調理） ②お茶会	10 (4時間/10)	・お茶会用のお菓子を調理する。 ・友達や教師と一緒に飲み物の準備をする。 ・飲み物の希望を聞いたり、言葉を添えて出したりする。 ・会食の雰囲気や招待客との会話を楽しむ。

※お茶会は4回行う（招待客：小学部職員、小学部5年生、西館小学校4年生、小学部1・2年生）

5 本時の計画（33時間中の27時）

(1) 本時の目標

- ・友達や教師と一緒にお茶会の準備を進め、会食の雰囲気や5年生とのやり取りを楽しむ。

(2) 児童の目標と実態

【クッキーと飲み物を運ぶグループ】

児童 (性別)	本単元の目標	本時に関わる児童の実態	本時の目標
A 3年 (男)	・友達や教師の言葉掛けを受け、自分から手を伸ばして活動に取り組む。 ・友達や教師と一緒に準備したり、会食したりしてお茶会の雰囲気を楽しむ。	・車椅子を使用している。発語はなく、指示理解も低い。学級の友達や教師へ関心が芽生えてきており、友達の言葉掛けに表情や手を伸ばして応じている。	・友達や教師と一緒に飲み物を運んだり、招待客の呼び掛けに表情や身振りで応えたりして、お茶会の雰囲気を楽しむ。
B 4年 (男)	・担当する活動内容が分かり、友達に言葉を掛けながら一緒に取り組む。 ・招待客との会話を楽しみ丁寧な言葉で応答する。	・手先が器用で指示理解も高い。担当する活動がうまく分かり、リーダーとして友達と一緒にお茶会の準備に取り組んでいる。	・招待客へ言葉を添えて飲み物を出したり、簡単な質問に答えたりする。

【飲み物を作るグループ】

児童 (性別)	本単元の目標	本時に関わる児童の実態	本時の目標
C 3年 (女)	・教師の支援を受けながら活動に必要な道具や補助具を使って制作や調理活動に取り組む。 ・お茶会の中で、友達や教師とのやり取りを楽しむ。	・車椅子を使用している。発語はないが、発声や身振りなどで簡単なやり取りができる。教師の言葉掛けに反応しながら、飲み物の準備に取り組んでいる。	・友達や教師と一緒に飲み物を準備したり、招待客の呼び掛けに身振りや発声で応じたりして、お茶会の雰囲気を楽しむ。
D 3年 (男)	・活動に必要な道具を自分で準備し、時間いっぱい活動に取り組む。 ・お茶会の中で、友達や招待客との言葉のやり取りを楽しむ。	・簡単な言葉でのやり取りができ、困ったときに自分から友達や教師に助けを求められる。人と関わることを好み、招待客へ話し掛けに行くことがある。	・招待客の質問に答えたり、自分から友達や招待客に話し掛けたりする。
E 4年 (男)	・指先を使った活動に慣れ、手元をよく見て活動に取り組む。 ・友達や教師と簡単な言葉のやり取りをしながら、お茶会の雰囲気を楽しむ。	・転倒を伴うてんかん発作が起きることがある。簡単な言葉でのやり取りができ、担当する活動に順番を付けながら、友達や教師と一緒に活動に取り組んでいる。	・教師の支援を受けながら、飲み物の準備に取り組んだり、友達や招待客とのやり取りを楽しんだりする。

○指導計画

- ・小単元名が単元名と関連しているか。
- ・各小単元名の関連が分かるか。
- ・一連の活動としてまとまりがあるか（計画、準備、実施、反省など）。
- ・学習が積み重なる計画になっているか。
- ・目標が具体的であるか。
- ・学習活動を盛り込み過ぎていないか。

○本時の計画

〈本時の目標〉

- ・本時に達成可能な目標として絞り込まれ、具体的になっているか。

〈児童の目標と実態〉

- ・本単元の目標、本時に関わる児童の実態、本時の目標が一貫しているか。
- ・本単元の目標が、共通の単元の目標や個別の指導計画の目標と関連しているか。
- ・本時に関わる児童の実態は、本時の目標や活動の設定理由が分かる内容になっているか。
- ・本時の目標が具体的になっているか。

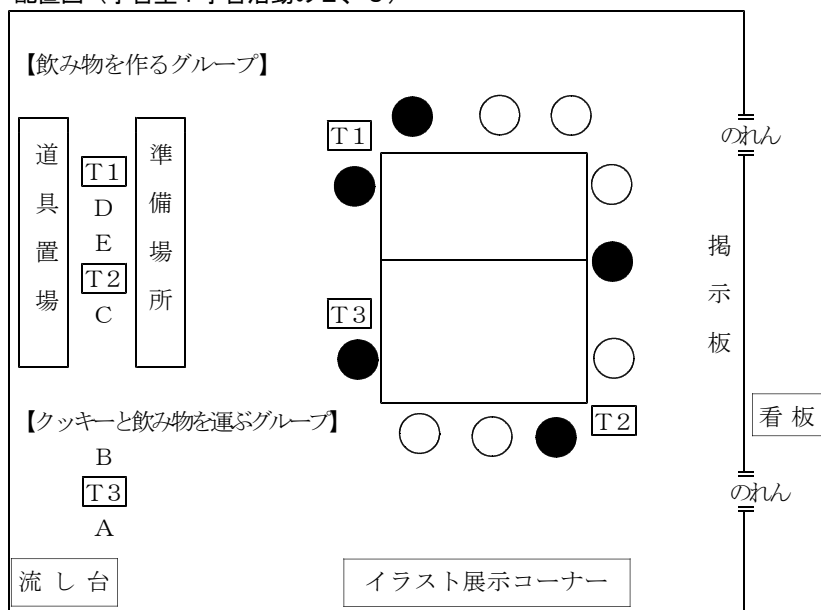
(3) 展開

時間	学 習 活 動	指導の手立て及び留意点 ※□内は本時の目標達成のための個別の手立て
5分	1 本時の活動内容とめあてを知る。 (1)挨拶をする。 (2)活動とめあてを知る。 (3)合言葉を話す。 (4)学習室へ移動する。	・活動内容と学習のめあてが分かるように、学習予定表やめあてを黒板に掲示する。 ※めあて「5ねんせいによるこんでまろう」 ・お茶会に向けて意欲が高まるように、エプロンやバンダナを身に付ける。また、Dの掛け声に合わせて全員で合言葉を話す。 ※合言葉「スマイルおとどけたいがんぱろぞ、エイエイオー」
5分	2 お茶会の準備をする。 (1)担当場所につく。 (2)おもてなしの練習をする。	・飲み物の準備の仕方や希望を聞く際に添える言葉などが思い出せるように、教師が招待客役になり、飲み物の希望を聞いて準備し、飲み物を渡すところまでの流れを一回行う。
30分	3 お茶会をする。 (1)リーダーが5年生を招待する。 (2)お茶会をする。 ①飲み物の希望を聞く。 ②飲み物を作る。 ③クッキーや飲み物を運ぶ。 ④一緒に会食する。 ⑤質問タイム ⑥感想を聞く。 (3)全員で見送りし、教室へ移動する。 【飲食物】 ※クッキー ・さつまいも(星型) ・かぼちゃ(ハート型) ※ミックスジュース (すりおろしりんご入り) ・りんごりんご(赤) ・りんごオレンジ(黄) ・青りんごカルピス(緑)	・児童の活動意欲が高まるように、5年生から出た感想や反応をタイミングを見ながら児童に伝え、即時評価を行う。(T1) ・Aが活動しやすいように、活動中の姿勢保持や移動時の支援をする。(T3)
		A ・招待客とのやり取りが楽しめるように、友達と一緒にクッキーを運ぶための補助具を準備したり、状況に応じて児童の気持ちを代弁したりする。
		B (リーダー) ・言葉を添えて飲食物を出したり、招待客の質問に応えたりできるように、場面に応じたせりふや飲食物のレシピが書かれたポケットサイズのカードを準備する。
		・児童が力を合わせて飲み物の準備を進められるように、Cの支援を中心に行いつつ「〇〇さんへどうぞ」など児童をつなぐ言葉掛けをする。また、Eの発作時の対応にも当たる。(T2)
C ・教師と一緒に楽しみながら飲み物の準備ができるように、引っ張り式の補助具を準備したり、招待客の反応を児童に分かる言葉で伝えたりする。		
D ・招待客の質問に考えて答えられるように、質問内容を分かりやすい言葉で伝えたり、自分で確認できるポケットサイズのレシピカードを準備したりする。		
E ・会食への期待感が高まるように、準備する飲み物の数を一緒に数えたり、招待客とのやり取りを教師が仲立ちしたりする。		
		・児童同士の関わりが増えるように、質問タイムやリーダーが招待客に感想を求める機会を設定する。(T1)
5分	4 本時の振り返りをする。 (1)振り返りをする。 (2)次時について知る。 (3)挨拶をする。	・お茶会でもてなすことへの意欲が高まるように、児童が力を合わせて活動した様子や招待客の感想を紹介する。(T1) ・次時の活動が分かるように、教師と一緒に予定表で日程を確認する。

〈展 開〉

- ・学習活動が分かりやすく表記されているか。
- ・十分活動できる時間配分になっているか。
- ・興味・関心や課題意識をもてる導入になっているか。
- ・教師の説明等が長い導入になっていないか。
- ・導入から展開へのつながりが自然か。
- ・十分活動し、繰り返す中で、気づき、考え、試行する展開になっているか。
- ・教師に待つ姿勢や即時評価をする意識はあるか。
- ・T1が全体を把握できる設定にしているか。
- ・教師が計画にこだわらずに、偶発的なことにも対応することを想定しているか。

(4) 配置図（学習室：学習活動の2、3）



※児童●は、会食の際に招待客○の間に入る。また、これまでの活動の様子を掲示板で紹介する。

(5) 準備物

手順表、質問カード、クッキー運び用ウォーカー、引っ張り式氷入れ機、コップ、ストロー、フードプロセッサー、トング、小皿、クッキー、飲み物類、氷、コースター、看板、のれん、おもてなし作品、掲示物、テーブルクロス、滑り止めマット、バンダナ、エプロン、布巾、メニュー、オーダー表、ペン、トレイ、ウェットティッシュ、ミニホワイトボード、iPad、顔写真カード、ミニスマイルハウス（振り返り用）、司会カード、クーラーボックス

(6) 評価の観点

- 児童 ・友達や教師と一緒に飲み物を作ったり運んだりして、お茶会の準備に取り組めたか。
- 教師 ・言葉や発声、表情や身振りなどで応答しながら招待客とのやり取りを楽しめたか。
- ・児童が互いに協力してお茶会の準備に取り組んだり、招待客とのやり取りを楽しんだりするためのグループ編成や補助具の準備、場の設定や教師の支援内容は適切であったか。

【資料】



クッキー運び用ウォーカー



引っ張り式氷入れ機

〈配置図〉

- ・安全・安心な配置になっているか。
- ・全体や個々の目標達成のための配置になっているか。
- ・活動を理解し、活動に集中できる環境であるか。
- ・T1は全体を把握できる位置にいるか。

〈準備物〉

- ・必要な教材・教具等が準備されているか。過不足はないか。
- ・教材・教具等を有効に活用する計画があるか。

〈評価の観点〉

- ・評価しやすいように、分かりやすく具体的な観点になっているか。

2 授業検討会及び授業研究会

授業研究会 協議題と進め方

協議題「生活単元学習及び授業の基礎・基本に基づく授業実践の改善について」
(提示授業の協議、担当教諭の資料に基づく協議)

【授業実践の改善のキーワード】

「基本姿勢」「ねらい」「学習活動」「環境設定」「教材・教具」「説明・教示」「評価」
～特別支援教育のミニマムスタンダード「授業実践チェックリスト」より～

【協議の進め方】

(1) 提示授業の協議：50分

1分	①進行者を決める。
3分	②提示授業の成果を黄色、課題と改善案をピンク色の付箋紙に黒サインペンで2行程度で書く。キーワードに関する内容の箇所に赤サインペンで下線を引く。
2分	③黄色の付箋紙をホワイトボードにすべて貼る。
25分	④ピンク色の付箋紙をホワイトボードに貼り、理由を加えて話す（関連するキーワードが同じ付箋紙がある場合は、他の人も続けて出す）。 進行者は付箋紙を整理しながら進める。
4分	⑤本時の授業の課題として、最も優先度の高いキーワードを決める。
15分	⑥最も優先度の高いキーワードの課題・改善案について協議する。

(2) 担当教諭の資料に基づく協議：95分

2分	①協議の進め方を聞く。
76分	②一人ずつ資料について紹介し、協議する。 (各19分×4)
3分	・単元と授業実践の概要、授業実践の今後の課題・改善点を話す。
3分	・質疑応答をする。
3分	・授業実践の課題と改善案を、ピンク色の付箋紙に黒サインペンで2行程度で書く。キーワードに関する内容の箇所に赤サインペンで下線を引く。
8分	・書いた付箋紙について理由を加えて話す（関連するキーワードが同じ付箋紙がある場合は、他の人も続けて出す）。 ・B4用紙にキーワードごとに付箋紙を整理する。
2分	・授業実践の課題となったキーワードの優先順位を決める。
17分	③優先度の高い、共通するキーワードを中心に協議する。

2 授業検討会及び授業研究会

授業研究会 担当教諭の資料の様式

協議題「生活単元学習及び授業の基礎・基本に基づく授業実践の改善について」

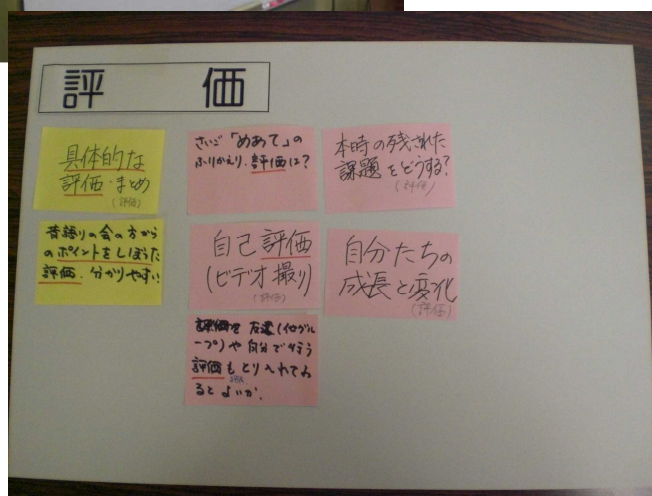
今年度実践した（実践している）単元を一つ取り上げ、基礎研修会での学びを生かした工夫・改善点と実際等について、以下の項目に沿って1ページにまとめてください。

学部学年等	単元名
1 基礎研修会での学びを生かした工夫・改善点について ○授業デザイン ○授業実践 2 工夫改善の実際 3 児童生徒の変容 4 今後の課題・改善点	

2 授業検討会及び授業研究会

授業研究会 協議の様子

【協議 1（提示授業の協議）】



【協議 2（各担当教諭の資料に基づく協議）】



2 授業検討会及び授業研究会

授業研究会 協議内容と助言の要点

【第1回 県央地区】

- 協議1
 - ・生徒の興味・関心や意欲を生かした学習活動の設定
 - ・一人で進める環境づくりや教材・教具の工夫、友達と関わる場面の設定
- 協議2
 - ・明確な目標設定と意欲をもてる評価
 - ・ICT機器の活用や他者からの評価など評価方法の工夫
- 助言
 - ・教師の話が多くなる理由を十分分析する。
 - ・児童生徒の気付きを待つ姿勢を大事にする。
 - ・単元名を吟味し、分かりやすくする。
 - ・教材研究を十分行い、単元設定の理由を明確にする。
 - ・実際の生活から発展し、実際の生活につながる単元づくりをする。

【第2回 県北地区】

- 協議1
 - ・楽しむ姿の具体化と楽しむ状況づくり
 - ・ねらいである役割を果たすための児童の位置や場面設定
- 協議2
 - ・興味・関心や経験を生かした学習活動の設定
 - ・学習活動の設定の前提となる十分な実態把握
- 助言
 - ・計画通りに授業を進めることにこだわらず、児童生徒の反応を丁寧に見たり、偶発的に起こることを大事にしたりする。
 - ・授業開始前から期待感をもち、課題意識をもてる工夫をする。
 - ・児童生徒にとって分かりやすい単元構成をする。
 - ・児童生徒の日常を捉え、実際の生活から発展した単元づくりをする。

【第3回 県南地区】

- 協議1
 - ・グループや個別の目標の焦点化と確認の仕方
 - ・他者評価における評価者との事前確認と即時評価の有効性
- 協議2
 - ・達成感や成就感をもてる授業づくり
 - ・児童生徒の目指す姿を大切にしたい授業の構想
- 助言
 - ・必要な指導や支援はしっかり行うこと。特に、生徒と生徒、生徒と外部指導者をつなぐ支援が必要である。
 - ・実際の発表場面を想定した場面設定をする。
 - ・教材を十分に解釈し、単元設定の理由を明確にする。
 - ・学校生活だけではなく、家庭生活や地域生活にも生きる学習をする。

2 授業検討会及び授業研究会

提示授業の紹介

小学部3・4年 生活単元学習

単元「スマイルおとどけたい2～スマイルハウスへようこそ～」

秋田県立比内養護学校 教諭 小嶋 聖

【単元の要旨・特徴】

児童が人と関わる喜びや感謝される体験を積み重ねることを目的とし、単元「スマイルおとどけたい」を年間を通して3回実施した。本単元では、お茶会に校内外の友達や教師を招き、クッキーや飲み物を振る舞い、会食を共に楽しむ活動を繰り返し行った。児童の主体性の高まりや学び合う姿をねらい、一人一人のよさを生かした班編制、他教科や自立活動との関連付け、できる環境づくりと繰り返しのある活動を取り入れて実践した。



1 児童の実態

本学級は、3年男子2名、女子1名、4年男子2名の計5名で構成される複式学級である。学校生活全般に支援が必要で車椅子を使用している児童が2名、てんかん発作で体調面に配慮が必要な児童が1名いる。制作や調理など作る活動や身近な人と関わって遊ぶことを好む児童が多く、これまで手作りした大型絵本の発表会や調理した物を招待客と一緒に会食する経験をしている。好きなことや得意なことを活動の中心に据えることで、友達や教師と作る過程を楽しむ姿や自分なりに工夫して活動する姿が見られるようになってきた。また、作った物が身近な人に喜んでもらえた経験から、「友達や先生にも見て（食べて）ほしい」という気持ちも高まってきている。

2 単元設定の理由

本単元は、児童が人と関わる喜びや感謝される体験を積み重ねる単元「スマイルおとどけたい」の2回目である。お茶会の会場となる「スマイルハウス」にのれんや絵画などを飾り、校内や交流先の友達や教師を招き、作ったクッキーや飲み物を振る舞って会食を共に楽しむ。クッキーや飲み物作りは調理方法が分かりやすく、味や形、色合いなど自分たちで工夫でき、楽しみながら活動に取り組める。調理と試食を繰り返す中で手順を覚え、自分たちで活動を進めたり、友達と力を合わせて取り組んだりする姿も期待できる。また、お茶会で招待客から間近で評価されることは、喜びややりがいの実感、そして人との関わりの広がりにつながると考え、本単元を設定した。

3 単元の目標

- (1) 自分の担当する役割が分かり、友達や教師と一緒に部屋の飾りやお菓子を作る。
 (2) お茶会の雰囲気味わったり、友達や招待客とのやり取りを楽しんだりする。

4 単元の指導計画（総時数33時間）

小単元名・主な学習活動	時数	主 な 目 標
(1) スマイルハウスってなんだろう ①スマイルハウスについて知る	1	・スマイルハウスでお茶会を開き、友達や教師を招いて一緒に会食することを知る。
(2) 飾りや小物をつくろう ①オリジナルマーク作り ②部屋の装飾作り ③小物、招待状作り ④衣装作り	14	・友達とアイデアを出し合って、「おとどけたい」のマークの色やデザインを決める。 ・スマイルハウスの飾りやお茶会で使う小物を作る。 ・招待客へ渡す招待状やチケットを作る。 ・調理やお茶会で身に付けるエプロンやバンダナを作る。
(3) お菓子と飲み物をつくろう ①メニュー選び ②調理、試食、アンケート調査	8	・お菓子や飲み物を数種類の中から選ぶ。 ・衛生面に気を付け、友達や教師と一緒に調理する。 ・味や形、色合いなど、試食を繰り返して決める。
(4) お茶会をひらこう ①お菓子の準備（調理） ②お茶会	10 (時 4/10)	・お茶会用のお菓子を調理する。 ・友達や教師と一緒に飲み物の準備をする。 ・会食の雰囲気や招待客との会話を楽しむ。

【工夫した点】

- ・児童同士での活動場面や繰り返しのある活動を設定し、教師の役割を徐々に児童へ移行していった。授業後に担任間で話し合いをし、児童の実態や変容に応じて指導計画の見直しや授業改善を行った。お茶会は4回行った（招待客：①小学部職員、②小学部5年生、③西館小学校4年生（交流校）、④小学部1・2年生）。

5 本時の授業

(1) 目 標

友達や教師と一緒にお茶会の準備を進め、会食の雰囲気や5年生とのやり取りを楽しむ。

(2) 展 開

時間	学 習 活 動	指導の手立て及び留意点
5分	1 本時の活動内容とめあてを知る。	・活動内容と学習のめあてが分かるように、学習予定表やめあてを黒板に掲示する。 ・お茶会に向けて意欲が高まるように、エプロンやバンダナを身に付ける。また、全員で合言葉を話す。
5分	2 お茶会の準備をする。	・飲み物の準備の仕方や希望を聞く際に添える言葉などが思い出せるように、教師が招待客役になり、飲み物の希望を聞いて準備し、飲み物を渡すところまでの流れを一回行う。

30分	3 お茶会をする。	・児童の活動意欲が高まるように、5年生から出た感想や反応をタイピングを見ながら児童に伝え、即時評価を行う。(T1) ・車椅子の児童が活動しやすいように、活動中の姿勢保持や移動時の支援をする。また、発作時の対応にも当たる。(T2、T3) ・友達と一緒にクッキーを運ぶためのウォーカーや飲み物の準備に必要な引っ張り式の氷入れ機など、児童の活動を支える補助具を準備する。 ・児童同士の関わりが増えるように、質問タイムやリーダーが招待客に感想を求める機会を設定する。
5分	4 本時の振り返りをする。	・お茶会でもてなすことへの意欲が高まるように、児童が力を合わせて活動した様子や招待客の感想をタブレット等を用いて紹介する(T1)。 ・次時の活動を教師と一緒に予定表で確認する。

【工夫した点】

- ・お茶会の会場となる「スマイルハウス」には、制作物（のれん、絵画、メニュー表）の飾り付け、活動の様子が分かる写真を掲示し、会場設営も児童が行った。

(3) 実 際

本時の授業は、お茶会の2回目である。会食に向けた準備では、招待客から飲み物の希望を聞いて担当に伝えたり、クッキー運び用ウォーカーで招待客の側に歩いて移動し、ペアの友達と一緒にクッキーを配ったりした。また、一連の流れ（①トングを使って容器に氷を準備する、②引っ張り式の補助具を使って氷をコップに入れる、③レシピ通りに飲み物をコップに注ぐ）に沿って、主体的に活動に取り組む様子が見られた。担当する活動だけではなく、招待客を待たせないよう自分の活動が終わると友達を自発的に手伝う姿も見られた。

お茶会では、招待客の「おいしいよ」などの言葉に笑顔を浮かべながら、和やかな雰囲気の中で会食を楽しんだ。質問タイムでは、招待客の質問に考えて答え、作った物の説明や自分たちの取組の様子を紹介した。また、「おかわり」の言葉を聞くと友達の側に行き、飲み物の希望を聞いて準備する様子も見られた。

授業全体を通して、学級の友達や招待客と自然なやり取りが展開された。自分の役割を最後までやり遂げようとする姿勢、招待客と一緒に楽しい時間を過ごしたいという児童の思いも強く、本単元に対する児童の意欲と仲間意識の高まり、そして心の成長が感じられた。



6 授業改善の実際

(1) 授業研究会後の工夫・改善点

めあての設定と評価を中心に授業改善を行った。めあての設定については、毎時間、児童共通の全体のめあてを文字とイラスト等で黒板に提示した。加えて、個々に応じて達成可能で分かりやすいめあてを設定した。また、評価については、活動場면을捉えた教師の言葉掛けによる即時評価、タブレットで記録した映像による活動紹介、掲示用のミニスマイルハウスに貼られた招待客の顔写真で評価をした。加えて、児童の実態に応じて個々のめあてが達成できたか、「◎○△」や「笑顔と無表情」などのカードを使った自己評価と友達や教師からの他者評価を取り入れた。

(2) 工夫改善の実際と児童の変容

全体のめあてを基に、児童の実態に応じて個々に具体的なめあてを設定したことで、活動に見通しがもちやすくなり、授業の振り返りで行う自己・他者評価を通して児童が達成感を感じる機会が増えた。また、めあての再設定や活動の難易度を状況に応じて変更したことで、児童の学習意欲や活動の質がより高まった。

児童の役割の見直しを行い、これまで教師が行っていた児童同士をつなぐ支援を一部児童へ移行したり、招待客にメニュー表を用いて飲み物の説明をするなどの役割を新たに加えたりした。その結果、友達の活動が終わるまで待ったり、友達と力を合わせて諸準備に取り組んだりする姿が増えた。また、経験したことを思い出したり、手順カードを確認したりして、自分で考えて行動することや自分の言葉で招待客とやり取りする姿が見られるようになった。活動を通して得た成功経験や招待客からの称賛の言葉は、児童にとって自信とやりがい、人と関わる喜びの実感につながった。

7 今後の課題と改善点

授業の構想・実践・改善をする上で、次のことに配慮していきたい。

一つ目は、分かりやすい単元構成である。児童の発達段階や興味・関心に加え、活動のゴールが明確な単元構成に心掛け、児童にとって必然性があり、チャレンジしたいと思える課題設定をしていきたい。

二つ目は、めあての設定と評価の工夫である。めあてを具体的に設定すると、評価がしやすくなる。一授業当たりの児童のめあてと活動を絞り、活動を盛り込み過ぎず、授業ごとに達成可能なめあてと分かりやすい評価基準を適切に設定していきたい。

三つ目は、環境設定と教師の支援内容の検討である。整理された学習環境や魅力ある教材・教具の準備に心掛け、学びが深まる状況を整えたい。また、児童の気付きや思考、変容を丁寧に見取り、児童の育てたい力について教師間での話し合いを深めていきたい。

秋田県立比内養護学校 教諭（兼）教育専門監 小笠原英紀
本単元は「ホームパーティ」で「おもてなし」という子どもたちが魅力を感じるテーマ、丁寧な子ども理解による一人一人が活躍できる役割の設定、招待客から認められて喜びを感じられる状況設定などから、児童の主体的な姿を引き出すことに成功している。

【資料 1】

単元「スマイルおとどけたい」に係る実践

平成26年度（後期から）

単元名と概要	学習内容と総時数	指導の重点事項
大型絵本を作ろう ○手作り絵本 「へんしんおばけ」 「へんしんかいじゅうデラックス」 ※あきやまただし作「へんしんシリーズ」の大型絵本を手作りし、友達へ披露した。2作目は、オリジナル要素を加えた。	①絵本選び ②絵本作り ③発表練習 ④発表会 【1 作目】 総時数24時間 【2 作目】 総時数26時間	・十分な遊びの要素 ・繰り返しのある活動 ・音声機器の活用 【他教科等との関連】 ・遊びの指導（ごっこ遊び） ・国語（せりふ） ・特別活動（絵本の読み聞かせ）

平成27年度（年間を通して）

単元名と概要	学習内容と総時数	指導の重点事項
スマイルおとどけたい 1 ～手作り絵本の発表会をしよう～ ○手作り絵本 「へんしんのりものファイナル」 ※「へんしんシリーズ」の完全オリジナル版となる大型絵本を手作りし、寸劇を交えて校内外の友達や教師、保護者に披露した。	①絵本選び ②絵本作り ③小道具作り ④発表練習 ⑤発表会 総時数30時間	・一人一人のよさを生かした班編制 ・繰り返しのある活動 ・活動を支える補助具 ・十分な遊びの要素 ・役割設定（司会、案内係） 【他教科等との関連】 ・国語（せりふ、場に応じた言葉遣い） ・自立活動（歩行、腕を使った道具の操作）
スマイルおとどけたい 2 ～スマイルハウスへようこそ～ ※おもてなしの空間である「スマイルハウス」に手作りの飾りや絵画を飾り、校内外の友達や教師、保護者を招待して一緒にお茶会をした。お茶会で食べるクッキーには、自分たちで育てた野菜を使用した。	①飾り作り ②小物作り ③飲食物作り ④おもてなし練習と模擬体験 ⑤お茶会 総時数33時間	・一人一人のよさを生かした班編制 ・繰り返しのある活動 ・活動を支える補助具 ・児童をつなぐ支援 ・役割設定（司会、クイズ係、案内係） 【他教科等との関連】 ・国語（場に応じた言葉遣い） ・算数（手指と道具の使い方、計量） ・自立活動（歩行、腕を使った道具の操作） ＊高等部総合サービス班の接客指導
スマイルおとどけたい 3 ～手作り紙芝居の発表会をしよう～ ○手作り紙芝居 「ブレーメンの音楽隊」 ※「ブレーメンの音楽隊」にオリジナル要素を加えた紙芝居を手作りし、寸劇と器楽を交え、進級を祝う会で校内の友達や教師に披露した。	①物語選び ②紙芝居作り ③小道具作り ④発表練習 ⑤発表会 総時数30時間	・一人一人のよさを生かした班編制 ・繰り返しのある活動 ・活動を支える補助具 ・役割設定（司会、チケット係、案内係） 【他教科等との関連】 ・国語（せりふ、場に応じた言葉遣い、パソコンのローマ字入力） ・音楽（歌唱、器楽） ・自立活動（歩行、腕を使った道具の操作）

【資料 2】

単元「スマイルおとどけたい 2」の再構築

1 単元「スマイルおとどけたい」の目的

- ・人と関わる喜びや感謝される体験を積み重ねる。

2 授業づくりにおける重点事項

- ・児童の興味・関心、実態を踏まえ、得意なことを取り入れた活動の設定
- ・発達段階に応じた繰り返しのある活動と役割設定
- ・障害の重い児童がきらりと輝く、一人一人のよさを生かした班編制
- ・活動を支える補助具の活用と教師の適切な支援
- ・整理された学習環境
- ・分かりやすいめあての設定と評価
- ・校内外の人材活用

3 単元の再構築

以下の点を踏まえ、年度当初に計画した単元の見直しを行った。

- ①前単元での児童の実態と変容の把握
- ②児童の思いのくみ取りと教師の願いの確認（担任間で定期的に実施）
- ③担任と他教科担当者との情報交換（他教科等との関連）
- ④年間指導計画検討会（担任、学部職員、研究部を交えた年間指導計画の見直し：年5回）



【年度当初の単元名】

スマイルおとどけたい 2
～スマイルカフェへようこそ～

（接客を中心とするカフェ）



【新単元名】

スマイルおとどけたい 2
～スマイルハウスへようこそ～

（一緒に楽しむことを中心としたお茶会）

カフェの店員になり、自分たちが育てた野菜で作った食べ物を招待客に振る舞う活動を予定していた。（児童は店員として接客し、招待客へ食べ物を提供する。一緒に会食する予定はなし。）

前単元は招待客に絵本を披露する一方向の関わりが中心であった。「一緒に食べたい」という児童の思い、「招待客と自然な関わりを深めてほしい」という教師の願いから、児童と招待客が近くに位置し、双方向に関わる活動を多く取り入れた。

【活動を支える補助具の一例】クッキー運び用ウォーカー



児童の「歩きたい」「触りたい」という行動に意味付けし、友達と一緒にクッキーを運んで配るための移動式の補助具を開発した。

中学部3年 生活単元学習

単元「開店！スマイルベーカリー①～中学部試食会を開こう～」

秋田県立養護学校天王みどり学園 教諭 藤原 佑介

【単元の要旨・特徴】

パン屋の開店を目指し、調理や製作、接客練習等を通して自分で考え、判断し、人と関わる力を高めることをねらいとした単元である。本単元は年間三期に渡って行う取組の第一期であり、導入期として位置付けた。なお、第二・三期は校内や地域での販売へと発展させ、自分たちの力でやり遂げる達成感を味わいながら、経験の拡大を図った。



1 生徒の実態

男子2名、女子6名の学年集団である。気持ちの表出に消極的な生徒や受け答えの仕方に課題がある生徒もいるが、それぞれ何らかの手段でやり取りしたい気持ちがあり、友達や教師と会話を楽しんだり、単語や身振りで周囲と関わったりしている。

1年時は弁当屋、2年時はからあげ屋と、調理から接客を一連の流れとした学習を経験する中で、多くの生徒が作る喜びや販売の楽しさを感じながら活動に没頭し、最後までやり遂げる達成感を味わってきた学年集団である。しかし、自信のなさから不安に感じたり、指示を待ったりする場面が多く、体験したことを基に新しいことや少し難しそうなことにも挑戦し、乗り越えることで自信につなげてほしいと考えた。昨年まで取り組んだ学習や修学旅行、校外学習等の経験を踏まえ、「今年はどんなお店をやるのかな」「パン屋さんはどうかな」などの発言も聞かれ、今年度の生活単元学習への期待感も高まっている。

2 単元設定の理由

パンは身近な食材であり、パンの給食を心待ちにしている生徒も多い。パンの調理には、こつをつかみながら根気強くこねあげる「生地作り」、好きな食材をアレンジできる「具材作り」、丁寧さや手際の良さを必要とする「成形」など多様な工程がある。このことから、生徒の得意なことや興味・関心を生かした活動設定、個々に応じた難易度や到達度の調整も可能であるとともに、完成を目指す各工程の中で、友達と共に考えたり判断したりする要素も取り入れることができる。また、1・2年生の時に経験した学習の流れを生かした単元構成が可能であり、初めて経験するテーマでありながら、生徒にとって長期的な見通しやイメージをもちやすい。

中学部試食会は、普段接することの多い学部 of 教師や下級生を対象に、自分たちの頑張りを紹介したり、即時に称賛や感想を受けたりすることで、友達と一緒に成し遂げた達成感を味わうことができる。以上を踏まえ、本単元を設定した。

3 単元の目標

- (1) パン作りや試食会に必要な物や自分の役割が分かり、進んで調理や試食会の準備に取り組む。
- (2) 自分の役割を果たし、自分の気持ちを周囲に伝えたり、友達の考えを受け入れたりしながら一緒に試食会を成し遂げる達成感を味わう。

4 単元の指導計画（総時数30時間）

小単元名	時数	主な活動内容
1 作ってみたいパンを決めよう	2	- 好きなメニューについての意見交換 - 調理したいパンの決定
2 パンを作って食べてみよう 	12	- パン作りの各工程の体験（全員で） - 自分のやりたい工程の選択 - パンの調理＜ウィンナーパン＞＜メロンパン＞ （分担：「生地作り」「具材作り」「成形」）
3 中学部試食会を開こう 	14 (本時： 7・8/14)	「試食会についての話し合い」 - 試食会の場所 - 試食会で提供するメニュー - 必要な準備物 - 役割分担 など 「試食会の準備」「試食会の開催」 - パン調理 - チラシ作り、配付 - チケット作り - 店舗設営 - アンケート用紙作り
4 感想やアンケートの結果を見てみよう	2	- アンケートの振り返り - 今回の成果、次回に向けての課題についてのまとめ

【工夫した点】

- 生徒がこれから行う単元のイメージや全体像を早くつかむことができるように、最初の段階で少しでも多く材料に触れ、実際にパン作りを体験する計画とした。
- 昨年の販売経験を生かした意見やアイディアを引き出すことができるように、試食会についての話し合いの時間を設定した。
- 自分たちの頑張りや今後の課題に気付き、次期以降につなげるためにアンケートによる他者からの評価を取り入れ、生徒にフィードバックした。

5 本時の授業

(1) 目 標

- 自分の役割が分かり、調理に必要な物を準備し、生地を最後までこね上げたり、具材を包んで丁寧に成形したりする。

(2) 展 開

時間	学習活動	指導の手立て及び留意点
5	1 本時の活動を確認する。	・自分の役割や気を付けるポイントに気付くことができるように前時までに確認したポイントを尋ねる。うまく答えられない時はヒントとなるキーワードなどを提示する。
85	2 パン作りをする。 ＜生地作り＞ ・担当（生徒A～E） ～材料をボウルに入れ、生地をこねる。 ＜ウィンナーパンの成形＞ ＜メロンパンの成形＞ ・担当（生徒F、G） （調理を終えた生徒から）	・最後まで生地をこねあげることができるように、「手に生地が付かなくなるまで」という目安を提示したり、「あと〇回こねようね」などの言葉掛けをしたりする。 ・生徒同士で協力しながら取り組むことができるように、ペアの活動を設定したり、友達との相談を提案する言葉掛けをしたりする。 ・自分で必要な物を準備することができるように、生徒に応じて準備物リストを用意したり、調理器具を一か所にまとめて置いたりする。
	3 後片付けをする。	・洗った食器を直接調理台に置くことがないように、調理台に食器を置く場所を示す。
10	4 今日の活動を振り返る。	・自分たちの頑張りを振り返ることができるように「できた数」「生地の柔らかさ」「成形した形」など、いくつかのポイントを絞って生徒に質問する。

【工夫した点】

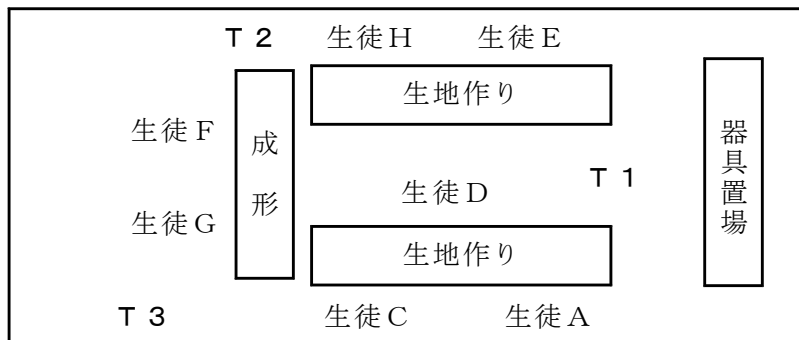
- ・全員で全ての工程を体験した後、「できる、できそう」「やってみよう」という生徒の興味・関心や希望を基に、役割を分担した。また、一人で行うことが難しい内容や目標個数を設定し、ペアや3人組で行う場の設定、生徒同士の距離など、必然的に友達同士で協力し合う姿を引き出す働き掛けに留意した。
- ・調理してできたものについて、出来栄を生徒自身が評価できるように、見本の写真を用意したり、できるだけ分かりやすい言葉で表現できる評価基準の設定を心掛けた。



手につかなくなれば
OK

(3) 授業の実際

【配置図】（生徒Bは当日、活動を選択する。）



役割分担に応じた配置とし、互いの様子を見合うことができるようにした。単元開始から間もないこともあり、教師と生徒の距離を近くした。

【授業の実際】



生地作り



得意な工程

ペアや3人組での
関わり（友達
の様子も見える
ように）



成 形

6 授業改善の実際

（1）授業研究会後の工夫・改善点

直接的な指示の多さが課題として挙げられたことから、教師が言葉で伝えたり手を添えたりして一緒に行っていた手立てを教材（工程表や写真など）に変えたり、手本の提示など教師が行っていた役割を生徒に任せたりした。また、生徒の頑張りやうまくできた場면을即時に捉え、全体に投げ掛け、互いに認め合う場を設定した。

（2）工夫改善の実際と生徒の変容

上記の工夫・改善点により、生徒が考える姿や判断して行動する姿、教師が近くにいらなくても友達同士で解決する場面が増えた。また、自分の作ったパンの出来栄を判断したり、「〇〇さんの作ったパン、きれいだね」などのように友達の頑忙りを認め合ったりする場面が多く見られるようになった。

7 今後の課題と改善点

単元「開店！スマイルベーカリー」はこの後、12月の校内販売会を経て、2月に近隣の秋田県立大学での校外販売の実現を締めくくりとした。長期的に展開し繰り返し行ったことで、活動範囲が徐々に拡大するとともに、生徒の活動内容や目標も発展させることができた。今後は、授業者中心の評価になったり、目標設定や評価が不明確になったりしないように、授業者以外の評価（他の教職員、地域住民など）も取り入れながら、より明確な目標設定や評価をしていきたい。

秋田県立養護学校天王みどり学園 教諭（兼）教育専門監 加賀谷 勝
生徒の「やってみたい」と指導者の「こんなふうになってほしい」が合致した単元である。焼き上げたパンを県立大学で販売した際、仲間と目標を達成できた喜びと地域の人に認められたうれしさに、生徒の表情は自信に満ち溢れていた。

生徒が「またやってみたい」と思えるように、明確な目標設定と活動を具体的・即時的・視覚的にフィードバックしながら自己評価へ導く。学習の結果は生徒の言動に現れる。

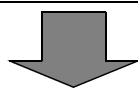
【資料 1】

年間三期の単元の概要と他教科・領域との関連

＜第1期（8・9月：総時数30時間）＞

「開店！スマイルベーカリー①～中学部試食会をしよう～」

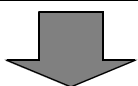
- ・パン屋を開店することを知り、好きなメニューや開店に必要なことを考える。
- ・パンの作り方を知り、教師に教わりながら調理や試食会の準備を行う。
- ・全ての調理工程を体験し、自分のできそうな工程や、やってみたい工程を選択して調理活動をする。



＜第2期（10～12月：総時数26時間）＞

「開店！スマイルベーカリー②～校内販売をしよう～」

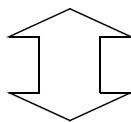
- ・前回の経験を基に、自分で担当する調理や制作に必要な準備をしたり、できるだけ友達と一緒にやり遂げたりする。
- ・中学部試食会でのアンケートや自分たちの感想を基に、味や形などの改善点を挙げ、実行する。



＜第3期（1・2月：総時数18時間）＞

「開店！スマイルベーカリー③～県立大学で販売をしよう～」

- ・多くの人に販売のことを知ってもらえるように、県立大学へ出向き、販売許可のお願いやチラシの配付などを行う。
- ・校内販売会での反省を基に、お客さんに喜んでもらえるような接客の仕方を考え、練習を重ねて開店に備える。
- ・これまでの実践を基に、開店に関わるほとんど全ての工程を自分たちで進める。また、役割分担も話し合いの中で決定する。
- ・1年の活動を振り返り、自分でできるようになったことや友達のよかった点を発表する。

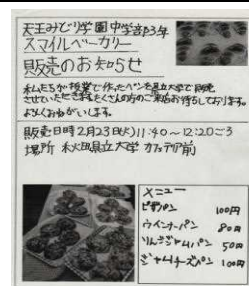


＜他教科・領域との関連＞

【国語】 ・調理器具の名前、ポスター
・チラシ制作、礼状作成

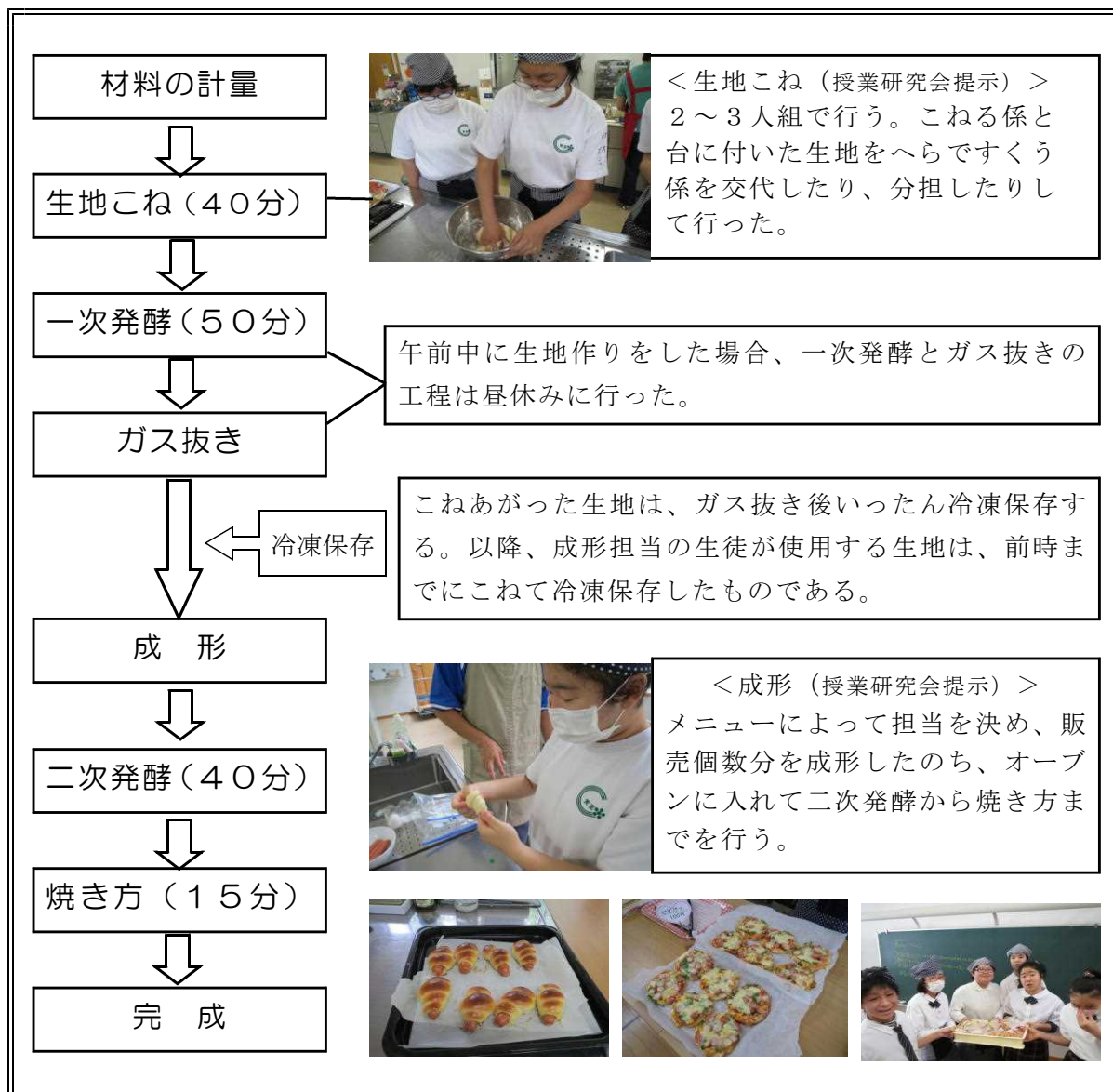
【数学】 ・会計係の計算（数と計算）、
材料の計量（量と測定）

【総合的な学習の時間】 ・地域貢献活動（近隣の清掃活動等）



【資料 2】

単元「開店！スマイルベーカリー」での調理及び販売準備の実際



販売準備

～販売日の週は、調理担当の生徒と販売準備の生徒に分かれて準備を行う～

販売準備ではポスターやチラシの制作、配付の他、「お客さんに分かりやすく」を合言葉に、値段表など店内掲示物の制作をした。また、店頭で食べてもらえるように「飲食スペースも設置したい」という生徒のアイデアから、座席配置を生徒同士で相談して決めたり、お客さんに使ってもらうランチョンマットを制作したりした。



中学部3年1・2組 生活単元学習

単元「われら横養むかしがたり隊③

～家族と全校のみんなに発表しよう～

秋田県立横手養護学校 教諭 鈴木 顕

【単元の要旨・特徴】

単元「われら横養むかしがたり隊」は年4回設定し、横手の昔語りの発表や練習、準備を通して、役割の遂行、仲間との協力、地域との交流や文化の理解を主なねらいとした。

本単元では、グループで協力したり、これまでの発表経験を生かしたりしながら、家族や全校の前で発表することを目指した。また、年間を通して継続的に交流している市内の昔語りの会の方から指導と評価を受け、生徒の意欲向上を図った。



1 生徒の実態

本学年は、1組6名、2組6名、計12名の在籍である。11名が小・中学校の特別支援学級の出身で、ごく少人数で学習してきた生徒たちである。今年度、学年合同の学習を積み重ねたことで、仲間と一緒に活動することの喜びや大切さを感じられるようになってきた。自分の経験を生かして考えたり、判断したりすることに課題はあるが、活動にやりがいを見出し、自分から進んで活動に取り組むようになってきている。

読み聞かせや演じることを好む生徒が多く、学習を進める中で意欲的に昔語りに取り組み、身に付けたことを発表の場で発揮しようとする姿が現れてきている。

2 単元設定の理由

単元「われら横養むかしがたり隊」はこれまで2回行い、小学部や特別養護老人ホームでの発表を通して、生徒たちは自信と仲間と協力する気持ちをもつことができた。

本単元では、横手市増田地域の内蔵に家族や昔語りの会の方々を招き、これまでお世話になったことへの感謝の場とする「増田ライブ」と本校児童生徒を対象とし、発表のクライマックスとして位置付けた「全校ライブ」の二つの発表の機会を計画した。生徒が二つのライブをこれまでの昔語りの学習の集大成と捉え、主体的に自分やグループの役割を果たしたり、これまでの経験を生かして活動に取り組んだりする姿を期待した。

本単元でも、昔語りの会の方々との交流を設定しており、二つのライブ本番に向けて指導を受け、昔語りの理解を深め、表現方法や語り口などの向上を図る機会とした。

また、生徒が主体的に目標に向かって活動したり、役割を果たそうとしたりする姿を育むため、生徒の興味・関心や得意なことに応じて、語り担当と演出担当の2グループに分かれた活動を展開した。加えて、グループ活動を重ねることで、協力して目標を達成しようとする意欲や態度の育成、相互理解の深化を期待して設定した。

3 単元の目標

- (1) グループ活動の目標や役割が分かり、仲間と協力したり、意見のやりとりをしたりして、昔語りの発表や練習に取り組む。
- (2) これまでの昔語りの経験を生かし、発表する状況や相手に応じた準備や発表に取り組む。
- (3) 地域の文化施設への関心を深め、場に応じた適切な振る舞い方や人々の関わり方を身に付ける。

4 単元の指導計画（総時数 18時間）

小単元名	主なねらい	時数
1 「これからの予定を確かめよう」	・ 次の発表の機会とスケジュールを確認する。 ・ 自分の目標や役割を決める。	1
2 「家族に発表しよう～増田ライブを開こう～」		
「増田ライブの準備と練習をしよう」	・ 増田内蔵の歴史や文化、マナーを学ぶ。 ・ 家族に向けた発表の練習をする。	2
「増田ライブ！」	・ 家族の方への気持ちを込めて発表する。	4
※増田内蔵への校外学習	・ 昔語りの会の方の評価から成果と課題に気付く。 ・ 地域の文化や施設への関心をもつ。	
「増田ライブを振り返ろう」	・ 発表の成果と課題をまとめ、次回の目標を立てる。	1
3 「全校のみんなに発表しよう～全校ライブを開こう～」		
「全校ライブの準備と練習をしよう」	・ 仲間同士で協力して練習を進める。 ・ 発表の流れが分かり、主体的に練習に取り組む。 ・ 全校ライブに向け、練習の成果に気付いたり、課題を改善したりする。	6
「全校ライブ予行練習」	・ 全校ライブ本番と同じ流れで練習をする。 ・ 昔語りの会の方の評価から成果と課題に気付く。	1 (本時)
「全校ライブ本番！」	・ 自分やグループの役割をやり遂げる。	1
4 「むかしがたり隊を振り返ろう」	・ 自分や仲間のよかったことをまとめたり、がんばりを認め合ったりする。	2

【工夫した点】

- ・ 生徒が見通しをもち、主体的に活動できるように、「実施→評価→改善→修正」という同じサイクルで活動を展開した。
- ・ 生徒の意欲を高めることができるように、外部評価を活動の節目に取り入れた。

5 本時の授業

(1) 目 標

予行練習で全校ライブの目標や役割、会場や仲間の状況に合わせて語りや演出に取り組む。

(2) 展 開

学習活動	活動の主なねらい
1 円陣を組んで、掛け声を上げる。	・学習の始まりを意識し、意欲や団結を高める。
2 本時について教師の話を聞く。	・今日の学習の流れや目標を確かめる。
3 昔語りの会の方にあいさつをしたり、話を聞いたりする。	・昔語りの会の方の話から練習で気を付けるポイントが分かる。
4 予行練習をする。	
①グループ別に全校ライブの目標を確かめる。	・自分やグループの目標が分かって練習に向かう。
②本番と同様の通し練習をする。	・全校ライブの本番に見通しをもつ。
③昔語りの会の方からの評価を聞く。	・昔語りの会の方から評価を受け、全校ライブに向けた改善点などを知る。
④昔語りの会の方の手本を見て、実際にまねる。	・本番に向けて、語りや演出を上達させるためのポイントが分かる。
5 教師のまとめの話を聞く。	・今日の頑張りや次時の内容が分かる。
6 円陣を組んで、掛け声を上げる。	・全校ライブ本番に向けて意欲や団結を高める。

【工夫した点】

- ・昔語りの会の方と事前に打合せをし、生徒の評価の観点や指導の内容を共有した。
- ・生徒同士で本時の目標を共有するミーティングの時間を設定し、「予行練習でがんばること」が分かって活動できるようにした。

(3) 実 際

生徒の意欲と団結を高めるため、授業の始めと終わりに、円陣を組むことを継続した。結果、生徒同士が声を掛け合って円陣を組み、自分たちで学習を始められるようになった。また、予行練習も教師の指示はほとんどなく、リーダーの生徒を中心に進めることができた。

昔語りの会の方からの指導は、事前に打合せをしたことで、評価が明確になり、生徒が理解しやすいように伝えていただくことができた。



～円陣を組んで団結を高める～



～ライブの予行練習～

6 授業改善の実際

(1) 授業研究会後の工夫・改善点

①目標の具体化・焦点化

生徒に提示した本時の学習の目標について、個人やグループの目標が混在していたり、理解しにくいあいまいな内容があったりしたことから、具体化・焦点化した内容を検討した。

②生徒が学びを実感できる評価の工夫

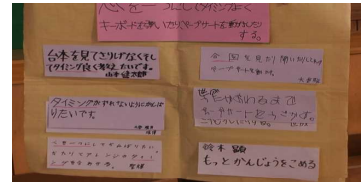
授業の終末の評価があいまいであり、生徒が本時の成果と課題を明確にすること難しかったことから、生徒の活動を数値化する評価を試みた。

(2) 工夫改善の実際と生徒の変容

- ①生徒が「今日のがんばりどころ」が分かるように具体化、焦点化した目標の提示

本時の目標を整理し、具体的な行動目標にすることで、シンプルで分かりやすいものになるようにした。

◇生徒の変容：目標達成のための具体的な活動を想起し、主体的に活動することができた。



前) 目標が多い、複雑

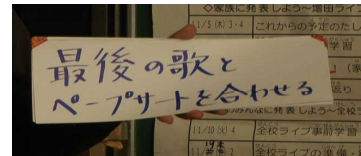


- ②生徒の評価の数値化（教師とのやりとりを介して）

学習のまとめの場面で「今日の練習は何点だった？」と生徒に尋ね、生徒が「90点！」や「65点…」と自分の活動を数値化するとともに、その理由を考えられる

ようにした。そして、生徒が「仲間とタイミングが合ってよかった」「声が小さかった」というように、自分やグループの活動を具体的に振り返られるようにした。

◇生徒の変容：学習の成果と次時の課題を整理することで、活動の発展や改善をすることができるようになった。



後) シンプルに焦点化した目標提示

7 今後の課題と改善点

(1) 授業デザイン

授業デザインにおいては、特に実態把握から単元設定をする中で、生徒の生活上の課題を適切に捉えられるようにしたい。

また、教材研究において、教材のもつよさだけでなく、その教材を使う意図や生徒にとってどのような意味があるかといった観点での吟味を図っていきたい。

(2) 授業実践

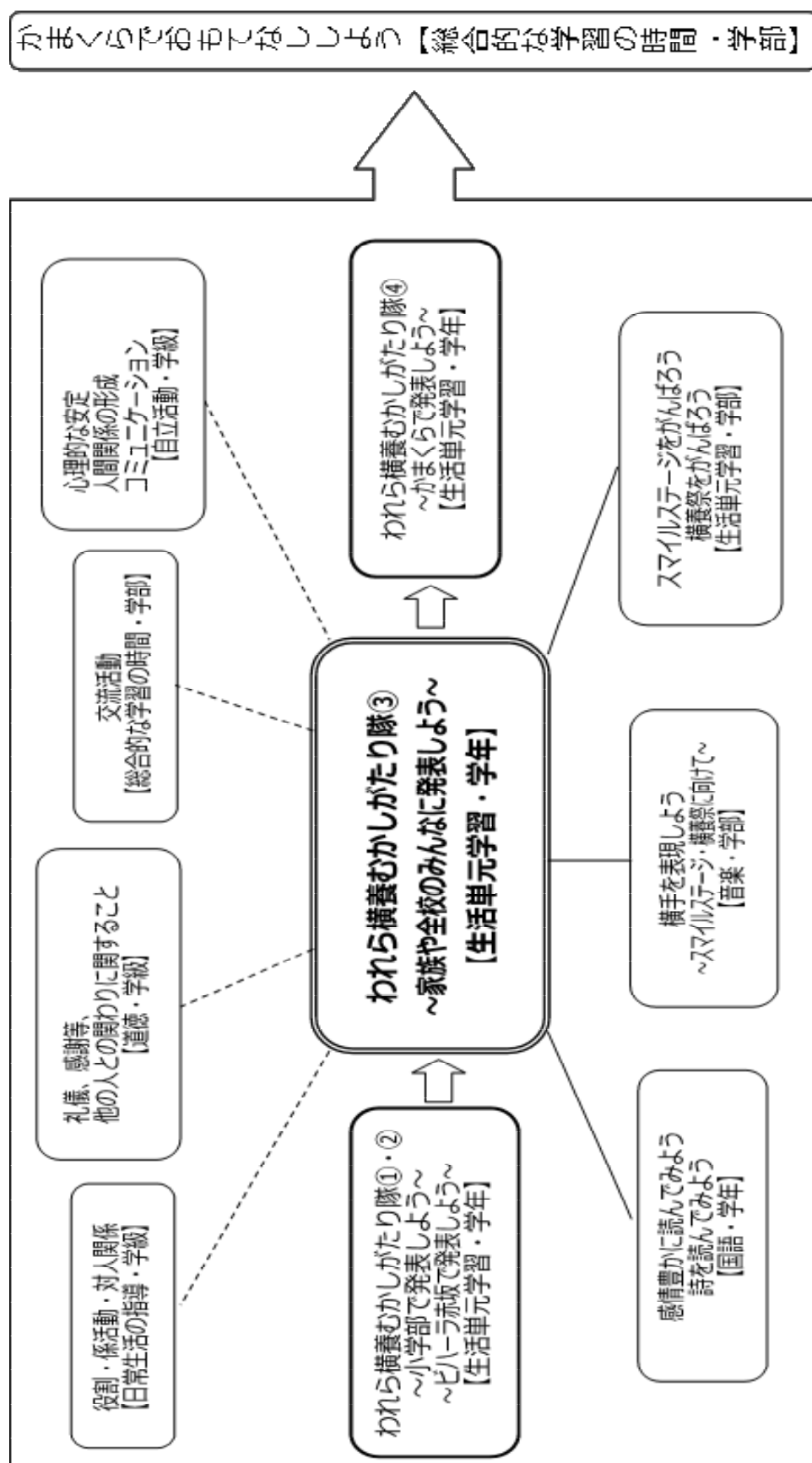
授業実践においては、生徒がより成就感、期待感をもつことができる授業実践を行い、生徒が学んだことを誰かに伝えたくなったり、次時を楽しみに待ったりできる授業づくりをしたい。そのために、生徒が必然性を感じて学習に取り組む仕掛けづくりをしていきたい。

また、主体的な活動を引き出すため、ただ「見守る、待つ」だけでなく、必要に応じて必要なタイミングで言葉掛けをしたり、生徒同士の考えをつないだりするといった指導、支援ができるようにしたい。

秋田県立横手養護学校 教諭（兼）教育専門監 佐々木 義範

本実践のポイントは三つである。一つ目は教師が育てたい力を明確にもって、単元を貫いて取り組んだこと、二つ目は生徒自身が変容を実感できるように自己評価と外部評価を取り入れたこと、三つ目は昔語りの会の方々と綿密な打合せを行って取り組んだことである。これらのことは、地域資源を活用した生活単元学習を実施する際の重要なポイントとなる。ぜひ、参考にしたいものである。

【資料 1】 中学部 3 年の提示授業の単元と他の単元等の関連



* 関連図の点線はねらい、実線は内容の関連を示す。

* 総合的な学習の時間「かまくらでおもてなししよう」は、本校中学部の特徴的な取組である。
学部合同で取り組むものであり、1 年間の学習の総まとめとして位置付けている。

昔語りを披露する
横手養護学校の生徒たち

横手養護学校・中学部
「昔語り」披露
入所者と交流
特養ホーム訪問

横手市の県立横手養護学校
中学部の生徒たちが8日、同
市の特別養護老人ホーム「ビ
ハーク赤坂」を訪れて「昔語

り」を披露、入所者
と交流を深めた。
中学部では本年度
から授業の一環とし
て、同市の昔語りグ
ループから指導を受
けている。今回は昔
語りの披露を通じて
地域住民と交流、あ
いさつや礼儀を学ん
でもらおうと同校が
企画した。

この日は3年生10
人が、紙で作った人
形を用いて「ねずみ
のすもも」を披露。
「むがし、むがし、あるどろ
るに」などと物語を読み上げ、
「とっぴんばらりのぶこ」で
締めくくると、会場から拍手
が送られた。
佐藤大海君(14)は「とても
緊張したが、人形の動きにし
っかりと合わせ、物語を読み
上げることができた」と話し
た。
(加藤慶一郎)